

# 平成 29 年度 向陽台高等学校 学校経営計画および学校評価

1 めざす学校像

校長 和泉 秀雄

**学校創立の理念** 良識ある立派な市民の育成と高い技能や専門性を持った人材の育成。

**教育目標** 人づくり 夢や志を持ち、命の大切さ、人の温かさや痛みのわかる人間の育成  
 学力向上 ともに学び、それぞれの学力と可能性を伸ばす  
 進路実現のための教育 自己実現ができ、社会でたくましく生きる力を育む

**学校要覧**

**建学の精神** ①良識ある立派な市民の育成 ②時代の変化に対処できる優秀な人材の育成

**教育目標** 社会で生きる力を育む。市民として社会に貢献できる確かな人物の育成、豊かな知性の育成、自己の未来デザインの形成と進路実現をめざした教育を実践する。

**教育方針** 時代と共に歩み、時代の要請と社会の変化に対応する斬新で独自性に富んだ、時代を創っていく教育をめざす。  
 「時代は人が造る。人は学んで造られる。絶えず学び、絶えず行え」  
 「自己改革なくして成長なし」

**学校の使命** 「いつでもどこでも誰でも」の学びのかたちを創り、失敗をも「自立」の過程とする「自立へのレッスン」の場としての学校

**重点目標**

- 1 生徒一人ひとりのニーズに応じた学力向上と進路指導
- 2 本人や保護者の思いに寄り添い自己実現を図る学校づくり
- 3 広域通信制・単位制の学校として、より質の高い教育の提供と実践の発信

⇔

**目指す生徒像 29年度**

- 一人ひとりが生き生きとした活力のある生徒
- チャレンジ精神にあふれた生徒
- 互いを助け合いながら共に生きる生徒

**目指す学校像**

- 変化を怖れず挑戦する学校
- 地域に開かれた信頼される学校
- 安全で安心できる学校

## 2 中期的目標 29年度～31年度

- I 学校経営組織の一体感とフレキシブルな組織づくりによる「向陽台ロマン」の実現**
- (1) 権限と責任意識の明確化
- ①ラインとプロジェクトを活用した組織的経営
  - ②機能的・一体的・迅速的な組織づくり
  - ③会議の段階化と情報の階層化
- (2) 危機意識の共有
- ①未来づくりへの参画
  - ②基礎データの共有と意識化
- (3) 共同体意識の醸成
- ①学校伝統の共有
  - ②数値化した課題共有・情報共有、学校自己評価等の活用
- (4) 通信制高校の特色と役割の共有
- ①個性化、国際化、情報化、多様化の時代の教育への挑戦
  - ②技能連携制度に基づく技能連携校との関係の強化と発信 ○向陽台ロマンの 22 世紀の通信制教育
- II 本校の未来を託すための人材の発想に基づく人材育成**
- (1) マネジメント力の育成・発展
- ①信頼をベースにした役割期待の明確化 ○ラインとプロジェクトの活用
- (2) 建設的議論による学校づくり
- ①敵味方論の克服・感情人事の払拭 ○居がい・やりがいの醸成
  - ②戦略会議 ○参画意識の醸成と将来設計の共有
- (3) 未来志向の支援
- ①チャレンジ力とプラス思考の積極的評価・支援
  - ②若手・ミドルリーダーの積極的登用による人材育成・マネジメント力の育成
- (4) 指導力・授業力の重視
- ①教科指導力とカウンセリングマインド ○ベテラン教員と若手の連携交流推進
- III 教育力・専門性を高めて多様なニーズに応じた向陽台の「学校力量」を高める**
- (1) 実践力
- ①個に応じたペースでの指導法 ○学び直し ○eラーニングの積極的活用 →早稲田大学との連携模索 ○丁寧な懇談と距離感
  - ②5期制の特色を活かした支援法 ○短期の単位取得による成功体験
- (2) ICT活用能力
- ①学校環境の無線 LAN 化による環境整備 ○無線ラン環境による自学自習、自己管理、自己表現力の育成と伸長
- (3) キャリア形成の指導力
- ①大学進学と就職に向けた進路指導
- (4) コミュニケーション力
- ①社会的スキルの指導
- (5) 個別指導への対応力
- ①随時の補習等個に応じた柔軟な指導体制
- (6) 就労支援への力
- ①就職率の向上 ○無業（フリーター、アルバイト）から就労に向けたキャリア教育
- (7) 課題研究・授業力の向上
- ①研究授業の継続と授業アンケート ○技能連携校との研究会・進路講座の内容充実
- IV 発信力・ICT 活用を積極的に高め、本校の特徴を活かした「22 世紀の教育への挑戦」を広め認知度を高める**
- (1) 社会的意義・役割の意識化
- ①地域一体地域循環還元型教育 ○技能連携校協業モデル事業の実現
  - ②共生教育の推進 ○多様化・個性化の時代の新たな教育の推進 ○共生教育推進モデル事業の実施
  - ③マスコミ・府内公立学校の通信制イメージへの意識改革
- (2) 使命の共有・向陽台の源流
- ①校内意識の醸成・価値の共有 ○ベテラン教員の誇りと危機意識の喚起
  - ②地域の信頼 ○教室確保による必履修教科並びに学校設定教科の充実、キャリア教育の充実、多様なニーズに応じた教育の実現  
→高卒資格取得の学校から特色ある学校への脱皮、キャリア教育の充実、出口のしっかりした学校、学び直しとチャレンジ精神あふれる学校
- (3) 実践事例のまとめ、多様化・個性化の中での学習指導・キャリア教育
- ①全国・文科省・府内への積極的発信 ○通信の可能性・22 世紀型の教育への挑戦・向陽台ロマンの実現 ○教員の自信醸成
- (4) 連携事業の推進・技能連携校等組織的関係の充実
- ①技能連携校との組織的構造的連携構築 ○地域一体地域循環還元型教育モデル事業 →地域・行政との連携モデル事業
  - ②市町村連携モデル事業 ○地域一体地域循環還元型教育をもとに関係事業所等との協業モデル→通級指導等での発達障がい生徒対象モデル事業
  - ③ガンバアカデミーとの連携した人間教育と基礎学力向上 ○J リーガー育成事業への連携・支援
  - ④不登校生徒支援の NPO 法人との連携 ○不登校対応モデル教育への支援→連携基準作成、カウンセリングノウハウの共有
  - ⑤ NPO 法人等とのキャリア教育の模索 ○通信制高校の多様な生徒のニーズに応じたキャリア教育の試み
  - ⑥民間事業所との学力向上事業 ○難関大学進学と基礎学力保障への取り組み
  - ⑦大学等研究機関との連携模索 ○22 世紀型教育における通信制高校の可能性の検討

3 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

自己評価アンケート結果と分析	向陽台高等学校技能連携協議会からの意見
<p>○生徒 ・登校型コース生徒（115人）と新卒コース生徒（169人）、計284人で9月に実施。</p> <p>○教職員 ・教職員69人で、9月～10月に実施。</p> <p>【分析】 ・約61%の生徒が、「学校に行くのが楽しい」と回答。 ・「本校には、自分が学びたいと思える講座が多数ある」と回答した生徒は、約61%。</p> <p>※多彩・多様な講座を提供することが、「楽しさ」への道筋。</p> <p>・「本校には、他校にない特色ある教育活動が行われている」と回答した教員は、約82%。 ・「『わかる授業』を目指し、授業の組み立て等の準備を十分にしている」と回答した教員は、約81%。</p> <p>【しかし】↓ ・「本校には、他校にない特色ある教育活動が行われている」と回答した生徒は、約77%。 ・「本校の授業は、私にとってわかりやすい」と回答した生徒は、約70%。 ・「本校には、授業の教え方に様々な工夫をしている先生が多い」と回答した生徒は、約64%。</p> <p>※生徒と教員との意識の乖離を埋めていくことが大切。 また、教職員アンケートにおいて、「建学の精神」・「教育理念・方針」の浸透度が低いことも反省点。</p>	<p>向陽台高等学校技能連携校協議会は、向陽台高等学校と技能連携校相互の教育上、発展と運営の円滑化を推進するとともに、連携による高等学校教育の振興を目的に設置された会です。</p> <p>&lt;自己評価アンケート結果と分析に対して&gt; 中期的目標のひとつとして、多様なニーズに応じた向陽台の「学校力量」を高めることを掲げており、通信単位制高校共通のテーマと認識しています。 自己分析において「楽しさや選択性に関する数値が悪化していること」を反省点と上げ、「教員意識と入学してくる生徒の期待値とのギャップ」を課題としている点は評価できます。 この反省点と課題について教職員一人ひとりが謙虚に受け止め、課題解消のために一つ一つ新たな取組を実践し、向陽台高校の「学校力量」を上げていただき、各技能連携校に還元していただけることを期待しています。 平成30年9月13日協議会にて</p>

4 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>「向陽台ロマン」の實現 学校組織の一体感とフレキシブルな組織づくりによる</p>	<p>(1)権限と責任意識の明確化 ア 教頭補佐による分掌組織の把握と整理 (2)危機意識の共有 イ 今後のあり方等資料提供 (3)共同体意識の醸成 ウ 向陽台の源流等本校の位置づけの確認 (4)通信制高校の特色と役割の共有 エ 多様な生徒への指導対応のヒントをまとめるとともに向陽台ロマンの周知と情報共有 オ 技能連携制度に基づく技能連携校との関係の強化と発信</p>	<p>(1) ア 戦略会議・運営委員会での提案をもとに次年度体制案を作成する (2) イ 通信制高校を取り巻く情報を職員会議や研修報告等で提供する (3) ウ 職員室等での掲示を含め「見える化」していく (4) エ 合理的配慮委員会を中心に日常の気づきをエピソードの記憶としてメモ化。「向陽台ロマン」の意識醸成</p>	<p>(1) ア 次年度の学校組織図に反映 学校評価「役割認識」「意見の尊重」達成度50%以上 (2) イ 学校評価「教育方針・理念」での達成度50%以上 (3) ウ 学校評価「建学の精神」での達成度50%以上 (4) エ 配慮事項とエピソードを集めた小冊子作成（教育力・専門性と関係）</p>	<p>(1) ア 戦略会議を実施。31年度体制を図る次年度体制原案を作成し課題を共有した。 59%・67% (○) (2) イ 職員会議を通して校長より文科省資料等提供、進路部長より大学入試改革等の報告継続 42% (△) (3) ウ 職員室に60周年資料を展示するコーナーを設置（6月） 教頭が編集スタッフになる 32% (△) (4) エ エピソード記録の集積方法について合理的配慮委員会を中心に検討中 「向陽台ロマン」については、生徒指導等の実績の発信や人材育成での基本となる</p>
<p>人材育成 本校の未来を託すための人材に基づく</p>	<p>(1)マネジメント力の育成・発展 ア ラインとプロジェクトの活用 (2)建設的議論による学校づくり イ 居がいとやりがいの醸成 (3)未来志向の支援 ウ プラス思考の積極的評価と支援 (4)指導力・授業力の重視 エ 教科指導力とカウンセリングマインド</p>	<p>(1)(2) ア プロジェクトによる研修等の実施 イ 学校課題の進捗状況を共有 (3) ウ OnTheJobの考えで業務を遂行する (4) エ ベテランと若手の連携推進によるチームによる対応を図る</p>	<p>(1)(2) ア 研修の実施 イ 学校課題の配付 学校評価「計画的研修」での達成度40%以上 学校評価「伝える機会」での達成度40%以上 (3) ウ 若手チーフの増加 (4) エ 生徒指導等での体制確立</p>	<p>(1)(2) ア キャリア教育研修によりめざす生徒像「自他の個性を認め合い、自ら一歩前に進める人物」が確定した。（12月） イ 中期的目標に挙げた学校課題の解決に向け職員会議で継続的に校長より報告、共有化を図る。 51% (○) 26% (△) (3) ウ 分掌部長や合理的配慮委員長への若手任用の成果を中堅教員の活性化につなげる (4) エ 生徒指導の組織的指導体制の組織化が進む。 対外的なネットワーク体制も順調に進み連携が進んでいる。</p>

<p>「学校力量」を高める</p> <p>教育力・専門性を高めて多様なニーズに応じた向陽台の</p>	<p>(1)実践力 ア 5期制の特色を活かした支援法 (2)ICT活用能力 イ 学校環境の無線ラン化 (3)キャリア形成の指導力 ウ 大学進学と就職に向けた進路指導 (4)コミュニケーション力 エ 社会的スキルの指導 (5)個別指導への対応力 オ 個に応じた柔軟な指導体制 (6)就労支援への力 (7)課題研究・授業力の向上 カ 研究授業の継続と授業アンケート キ 技能連携校との研究会・進路講座の内容充実</p>	<p>(1)(5)(6)(7) ア 授業研究・事例のまとめ推進 (2) イ 無線ラン環境への準備 (3) ウ キャリア教育関係の研修実施 (4) エ 社会的スキル教材の整理</p>	<p>(1)(5)(6)(7) ア 特別な支援・配慮も含めた指導の気づき、エピソード記憶等の集積 ヒント集をまとめる 学校評価「指導の工夫・改善」での達成度90% (2) イ 環境整備の状況 学校評価「施設設備の長期的な計画」での達成度45% (3) ウ 研修の開催状況 学校評価「系統的なキャリア指導」での達成度55% (4) エ 社会的スキル教材のまとめ</p>	<p>(1)(5)(6)(7) ア 授業研究は実施。実践事例をとおして通信制の授業(スクリング)特性を理解する機会が必要との認識となり、次年度の研修で機会を設け通信制の指導の特色について理解を深める78%(△) (2) イ 副校長・教頭を中心にICTを活用した新たな教室イメージに基づき無線ラン環境での教育の可能性を情報担当・各教科で検討。7号棟新教室では「無線ラン環境」でのICTを活用した指導展開・内容を実証 33%(△) (3) ウ NPO法人と連携してキャリア教育研修を実施。リーダー協議・全体研修を実施し、めざす生徒像を確定させた。35%(△) (4) エ 生徒対象の社会人講座等の資料を整理中</p>
<p>発信力・ICT活用を積極的に高め本校の特徴を活かした「22世紀の教育への挑戦」を広め認知度を高める</p>	<p>(1)社会的意義・役割の意識化 ア 地域一体地域循環還元型教育 イ 共生教育の推進 (2)使命の共有・価値の共有 ウ 教室確保による教育講座の充実 (3)実践事例のまとめ エ 府内への積極的発信 (4)連携事業の推進・技能連携校等組織的関係の充実 オ 技能連携校との組織的連携の強化</p>	<p>(1)(4) ア・イ 新規事業のうち4事業の着実な展開 (2) ウ 教室増設を図る (3) エ 多様化個性化の中での学習指導・キャリア教育の探求へのヒント集 (4) オ 技能連携校全校の校長学校訪問を実施。実態と今後の展望を共有すると共に技能連携協議会を充実する</p>	<p>(1)(4) ア・イ 新規事業4事業の実施 学校評価「特色ある教育」での達成度85% (2) ウ 教室増設 講座設置の工夫 (3) エ 指導ヒント集・学校案内配付ホームページの工夫 学校評価「ホームページ」での達成度80% 研究助成・共同研究等の実施 (4) オ 全15校の訪問と技能連携協議会の役割拡大</p>	<p>(1)(4) ア・イ 三重県での技能連携校とのモデル事業の実施に向けて関係機関等と調整。地元行政含め協力体制ができた。生徒ニーズ状況も把握し連携した進行中。場所もほぼ絞られている ・ガンバアカデミーとの連携では担任制を敷き順調に進行、代表選手が在籍。 ・NPO法人との関係も広がりを見せている。 ・大学との研究連携は、通信制高校の今後について早稲田大学人間科学学術院向後教授との意見交換を予定(3月) (2) ウ 学園総務との連携もよく工事が順調に進行。開校講座等の教育内容の検討を進めている (3) エ 関係機関・関係者との顔の見えるネットワーク作り進む 次年度S市における研修において連携を進め依頼を受けて講師派遣を実施する予定 (4) オ 13校の訪問を実施。 協議会役割について意義と展開を共有するとともに協議会・育友会の役割の再確認と技能連携校としての高等専修学校の発信力の強化について意見交換を行い進めていく方向を共有した。</p>